

ひろがれボランティア
わっ・輪・和
いちほら



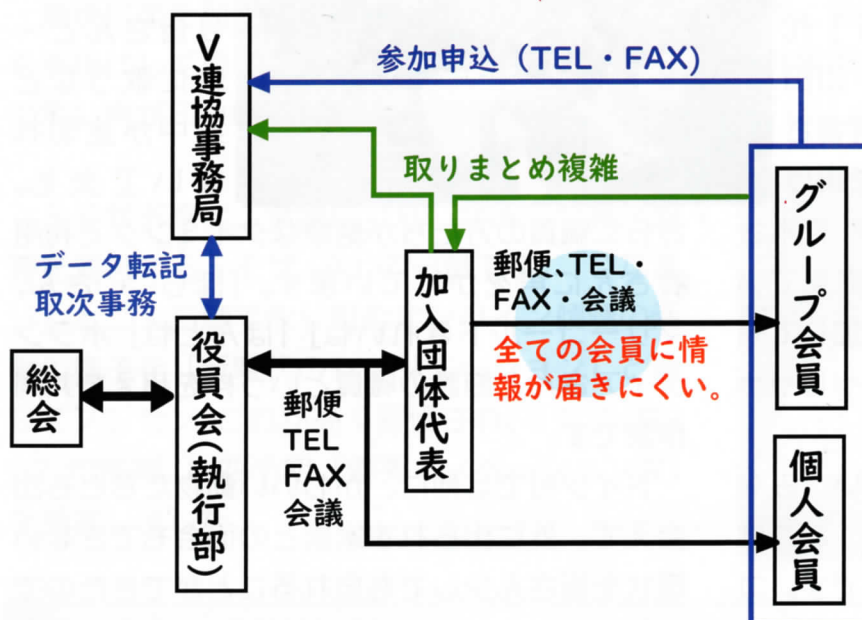
発行
市原市ボランティア連絡協議会
〒290-0075 市原市南国分寺台 4-1-4
事務局
社会福祉法人 市原市社会福祉協議会
市原市ボランティアセンター内
☎0436-20-3100/FAX0436-22-3031
メールアドレス
V_ichihara201904@yahoo.co.jp

市原市ボランティア連絡協議会 加入グループ45 個人会員20 総数642名 (2022年11月現在)

情報の双方向化について提案いたします。

市原市ボランティア連絡協議会 会長 鈴木幹夫

●現状の情報の流れ



ボランティア活動について市原市の現状は以下の通りです。市原市全体のボランティアセンター登録数は、163団体(3726名)、個人登録128名、合計3854名です。この中でV連協に加入されている登録数は、45団体(622名)個人加入20名、合計642名となっています。これは市原市の宝です。

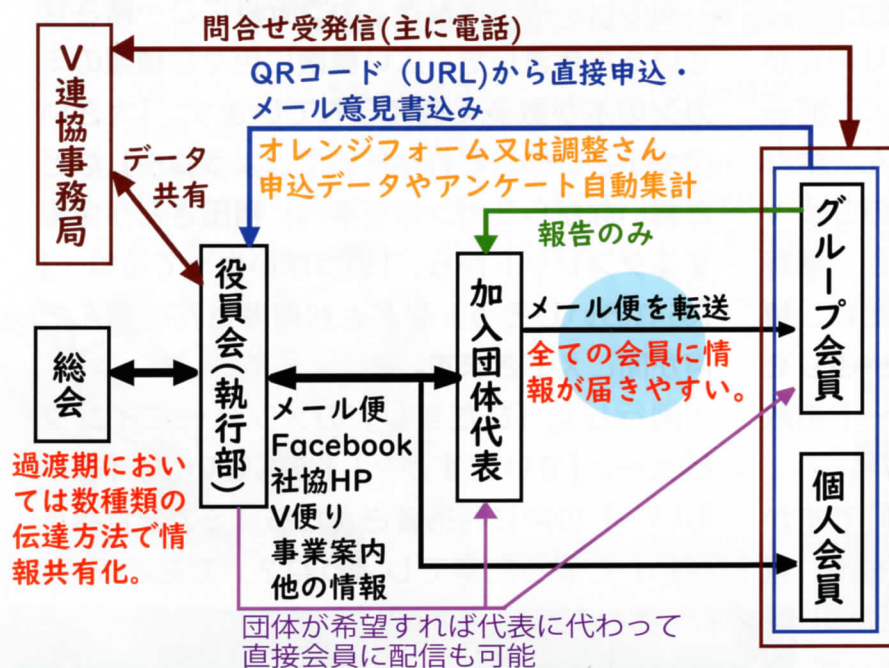
これらのボランティア活動家がお互いにつながり、どの団体個人がどんな活動をどこでどのように行っているかを認識し活動することが、今こそ必要な時だと思えます。それには情報が全ての会員に届き、会員がしっかりと発言できる仕組みづくりが必要です。そのためには

まず、団体代表・個人会員さんのパソコン&スマホ講座を実施し身に付けていただき、のちグループ会員のパソコン&スマホ講座を定期的に長期間実施する。また、団体が希望すれば出前講座も実施します。

●講座の概要 a. メール受信発信 b. QRコード c. SNS 及びホームページの開き方と見方 d. 添付ファイル開き方と発信 e. オレンジフォーム使い方 f. V連協メールアドレスへの接続と利用 g. その他会員の希望課題

「つながって活動できる喜び」を実感できる市原市のボランティア活動に発展させるために多くの会員と意見交換したいと思えます。

●これからの情報伝達方式



過渡期においては数種類の伝達方法で情報共有化。

今年度の会費納入がお済みでない会員様にお願い。

グループごとにまとめ、振込・ボランティアセンターへ持参・現金書留のいずれかにて納入いただきますようお願い申し上げます。

「傾聴の会 ひだまり」

代表者 青木 三郎 会員数：35名 活動：インターネット・テレビ電話傾聴。2015年9月個人宅と開始。2020年7月からはコロナ禍により高齢者施設でも開始する。現在は高齢者施設3か所で実施。

コロナ禍でのオンライン傾聴って？ どんなふうに行われているの？ 利用者さんの反応は？と、ということで取材しました。傾聴はお話に耳を傾けること、ですよね？
利用者さんとパソコン越しに向き合ってお話する様子、を想像していたら・・・

▼ミモザ市原の皆さん盛り上がってます！

「ミモザ市原グループホーム」(以下ミモザ市原)の職員さんが時間前にパソコンと大型テレビを繋いでスタンバイ。画面に、「傾聴の会 ひだまり」(以下「ひだまり」)代表の青木さん、メンバーの積田さん、山田さんたちが登場。まず青木さんが利用者さんお一人お一人のお名前を呼んで声を掛けます。皆さん「は～い」と良いお返事。青木さんは、利用者さんにはただテレビ画面を見ている、のではなく参加してもらいたいからおっしゃってました。

さて次に「は～い、みなさんこんにちは～ここはドイツ村のお花畑です。コキアが赤くなってますね～」積田さんの第一声に、皆さん手を振ったり声をかけたり。ベテランリポーター!?!の積田さん、中々の人気者です。この日はV連協の広報部副部長 藤野が同行させていただき、積田さんのリポーターぶりを

撮影。V連協のフェイスブックにリモート散歩の様子をアップさせていただきました。

利用者さんから「向こうのお花は何ですか～？」の質問に「マリーゴールドですね～。黄色やオレンジ色もありますね～」画面が切り変わってマリーゴールド畑が画面いっぱいに映し出されると「わ～、きれい!!」一斉に皆さんの顔が輝きます。

積田さんの移動の間に、リモート参加し



ている山田さんのマンドリン演奏がはいり皆さんと一緒に歌うなど集中が途切れない工夫も。

さらに職員の方たちが絶妙なタイミングで利用者さんに声をかけています。「ほら〇〇さん、マリーゴールドきれいね」「ほんとね」ボランティアさんと施設の職員という枠を超えた共同作業です。

ドイツ村では他に、かわいい動物たちとも出会えて、外に出られず家族との面会もできない現状を皆さん少しでも忘れることができたのではないのでしょうか？

別の日、積田さんとミカン狩りにご一緒させていただきました。広い農園に色々な種類のミカンの木が数多く植えられています。「大きいのか小さいの。どれが甘いでしょうね～」などと言いながらミカン畑を案内。積田さんが撮影するタスレットから、「いっぱい生ってるね～」「あれおいしそう」などと利用者さんの弾んだ声が聞こえてきます。

同行した「ひだまり」のメンバーにインタビュー。「甘いですか?」「うん甘いよ」「おいしい～」の声に利用者さんたち「ミカン食べた～い」と思った事でしょうね? でもご安心。



▼ミモザ市原の大型テレビ画面にはこう映っています。



この後積田さんが箱入りミカンをお届けしたそうです。歓声が上がったんじゃないでしょうか？

最後にまた利用者さんお一人お一人のお名前を声掛けして終了。楽しそうな利用者さんたちの笑い声が印象的でした。

ミモザ市原は、全国に 161 か所の介護施設等を運営するミモザ (株) の一員です。「ひだまり」と二人三脚で取り組むオンライン傾聴の活動の様子を「新時代のレクリエーション」と題してプレゼン。これが高く評価され、ミモザ (株) 22 年度第 1 四半期「優秀イノベーション賞」を受賞しました。

ミモザ市原の職員さんたちはオンライン散歩の間、利用者さんにグッと近づき色々な表情をたくさん撮影します。笑顔をいっぱい載せたプレゼンが、きっとミモザ (株) 担当者の方たちの心を打ったのだと思います。

ミモザ市原職員の皆さんが行う日々の介護の姿勢に、そして「ひだまり」の青木さん以下メンバーの皆さんの真摯な活動に与えられた賞です。本当におめでとうございます。

最後になりましたが、快く取材を受けていただき、色々ご協力下さったミモザ市原施設長の小林雅実様を始めスタッフの皆様ありがとうございました。

▼賞状を手に共に喜ぶ青木代表と積田さん。



いちほら環境フェスタに初めて参加しました

3年ぶりにアリオ市原で開催された「第7回いちほら環境フェスタ (パネル展示方式、10月5日~12日)」に参加しました。各参加団体 A1 ポスター 1 枚分のスペース割り当てで約20の会社、団体が参加。SaToYaMa よくし隊は置いていたチラシ 50 枚のうち 49 枚が、V 連協は 30 部の「V 連協だより」のうち 21部をお持ちくださっていました。平日は少し閑散としていましたが日曜・祭日はかなりのお客さんがあったようで、1000人位はこのブースを訪れたようだとの職員さんが話していました。

◀会場のアリオ市原サンシャインコート

▼SaToYaMa よくし隊のポスターをじっくりと見ている人が。



ポスター
V 連協

V 連協は下段が割り当てられたのであまり目立たなく残念。

新コーナー 始まるよ

—昨年から
ワークショップを開催し
皆さんの活動や経験をお聞きして
ボランティアの皆さんって凄い！
才能の宝庫だ！と気づきました。
これはみんなに
自慢していいんじゃない？
と、言う事で



こう見えて私、こんな事
できちゃいます！ こんな事に
凝ってます！ あの方凄いよ！
俳句、短歌、川柳、絵画や写真、
ガーデニング（お花・多肉・盆栽・
庭木・庭 etc...）、竹細工、木彫、
肉体美・釣り自慢等々 何でも
結構です。自薦他薦は問いません。
皆さんの多彩な技や技術を
ご紹介ください！



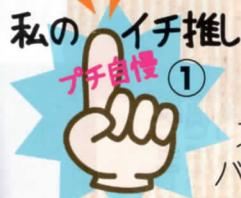
締め切り：2023年2月28日（火）

QRコードからもOK

V連協のメールアドレス (V_ichihara201904@yahoo.co.jp) まで。またはV連協へ
郵送でお願いします。広報部から折り返しご連絡します。どしどしお寄せください!!



「もう日本を3
周しているが、
せつかく行っても
天候によって狙い通
りの写真は中々撮れ
ないし、日本には四季があるの
でその季節季節でまるで違った風景に
なるから、まだまだ撮影したいところ
がいっぱいある。」そうおっしゃるの
は「日本の旅」代表 福田 耕一さん
です。各地の絶景をたくさん撮りため
ている福田さんに北から南へ絶景の旅
に案内していただきましょう。まず最
初は千葉と神奈川を繋ぐアクアライン
の海ほたる。光が美しいですね。
次号から「日本列島ぐるっと撮影旅」
福田さんの一言コメントと共に北海道
からスタートしますよ。お楽しみに！
感想や場所のリクエストなど、コメ
ントお寄せください。上記メールアドレ
スまたは郵送で。お待ちしております。



第1回目は広報部推薦「石川英明」さん。
石川さんは、日本おもちゃ病院協会会
員・レコード交流会主催・DJS(千葉県ダン
ススポーツ連盟)会員・市原市地域防犯アド
バイザー・NPO法人葬送の自由をすすめる
会理事など日々ご活躍されている多才な方
ですが、実はこんな事もできちゃうんです。



「古〜いスクーター再生記」

▼6月20日完成!



「このスクーターを購入
するキッカケは、単身赴任
中の印西市から自宅まで車
で4時間掛かった酷道（国
道）16号の渋滞でした。19
97年11月の購入でそれ以来
8万Kmを走っていました。

ところが、この車両は車
検対象外で全ては所有者責任です。昨年偶然次男
が「親父このスクーター前輪ブレーキの帕特見て」
と言うので、よくよく見ると既に使用限界を超えて
摩耗。「これではいつ死んでもおかしくない!」。次
男が「手伝うからリフレッシュしよう」と言う事で20
21年5月14日から6月20日
まで、我が家のカーポート
で分解整備を始めました。
オートバイショップでは「古
いので部品が揃わない」と
断られ、連日我が家での作
業になりました。完成後嬉
しくなって南房総を始め箱
根芦ノ湖までのツーリング
中。」



▲5月26日

▼6月15日



御年81歳。凄い方ですね!!

